

土に生き 土にかえらん

足立フサ子 著

せせらぎの音さわやかに卒寿なる

吾祝いしか岩にしむ音

今朝はなぜだろう。いつも聞いている、せせらぎの音がこんなにさわやかに聞こえるとは。「良く頑張ったね、立派な農婦になれたよ」と亡き父が言っているようだった。嬉しかった。このまま田んぼまで歩いて行こう。亡父の言葉に後押しされたかのように足取りは軽かった。そこには、きっと小鳥や雑草達が私を待っているだろう。(本文より)

昭和21年、18歳で農家に嫁ぎ、農業とともに生きてきた一人の女性によるエッセイ。嫁いだ日の思い出、夫とともに農作業や子育てに勤しむ毎日、人生の転機となった出来事、そして農業交流のホストファミリーとして受け入れた世界各国の人々と過ごす日々などを、短歌を交えていきいきと描きます。



◆目次

第1部

- 第1章 土に生き土にかえらん／学徒動員の思い出／私は十八歳の花嫁となる／産ぶ声 ●第2章 姑は明治の女性／短歌と姑の心／スクーターに乗れば ●第3章 母のエプロン／父を偲ぶ／小さな家出 ●第4章 農協婦人部との出会い／石鹼工房のスタート／晴れた日に／寺の泉水／柿園の中の芝生／福寿草／吾子の瞳／私のバッグ／陽の当たる縁側で ●第5章 長男の挑戦／ローラーを引く父と子／寄せ書 ●第6章 ふるさは春の色／イヌフグリ草／金婚式のプレゼント／竹ぼうきの思い出／大きな声で／私の日記／今年もおろくどん／鏡に向き合ったら

第2部

- 第7章 しめ縄に想う／ジャングル風呂／ボールを追う／孫と子猫／鈍行列車の旅／東京の高校生の農業体験 ●第8章 臨機応変だよ／ベルギーのジャバキス一家／アラスカの女性ジョー／さよならベン／サルバドル夫妻／アレとミゲル婚約旅行／コウモリの宿／ラージンの家族／童話の世界／スーさんの焼き飯／ベルギーのローラとの再会／ドイツの女性リサちゃん／ミャンマーの女性三人来る／礼儀正しいイギリス人カダン／花を生け私を待つマシュー君／上海の女性は江上さん／平和っていいよなあ

◆著者略歴

足立 フサ子 (あだち・ふさこ)

昭和4年(1929年)福岡県浮羽町生まれ
 43年より吉井町農協婦人部部長、理事等歴任
 平成4年、石鹼工房開設
 平成4年『蘭玉の詩』家の光出版社より発刊
 平成10年、『せせらぎの詩』家族編出版
 平成28年、短歌集『畔に咲く花』文芸社より出版

ご注文申込書 貴店名/帖合	注文数	発売：株式会社三恵社 TEL:052-915-5211 FAX:052-915-5019
	冊	著：足立フサ子 土に生き 土にかえらん 190頁/四六判/上製 定価 1,000円(税別) ISBN978-4-86693-118-0 C0092
ご注文は、JRCへ FAX：03 - 3294 - 2177(TEL：03 - 5283 - 2230) 株式会社JRC経由で、すべての取り次ぎへの出荷が可能です。返品は長期にお受け致します。		